

## 英文法教え方教室 3

## 導入からコミュニケーション活動まで

導入からコミュニケーション活動, 文法理解へ

## 規則動詞過去形

●筑波大学附属中学校 肥沼 則明

はじめに

平成元年度の学習指導要領の改訂によって文法事項の学年枠がはずされ、各教科書には1年生の最後に一般動詞の過去形が取り入れられました。過去形が早期に登場したことで、自己表現活動にそれまで以上の広がり生まれ、表現の中身にも深まりを持たせることができるようになりました。しかし一方で、やや複雑なルールを伴う文法事項が早めに登場したことが、生徒に負担となっているようにも感じられます。

そこで今回は、規則動詞の過去形の用法を、①既習事項を活用してオーラルにより導入し、②場面を重視したコミュニケーション活動の中で練習させ、③まとめの文法学習を行うことで理解を深めさせる、という流れで指導する方法を示したいと思います。なお、過去2回と同様に、自分が平成8年度に行った授業の記録をもとに指導の一方策を例示することとします。

## 1. 既習事項を活用した導入と練習

まずは、現在の習慣的な行為を表す表現から入り、オーラル・インターアクションを行う中で過去形を導入します。ポイントは、既習事項を上手に利用して、話の流れから過去のことを

言っているのだと想像できるようにすることです。

(第1時) ※文法指導の箇所のみ抜粋

## ① Oral Introduction

T: Let's talk about sports. I play tennis every day. So you say...? (自分を指して)

S: You play tennis every day.

T: What sport do you play, Sato-kun?

S1: I play soccer.

T: Do you play it every day?

S1: Yes, I do.

T: How about yesterday? Today is Monday. Yesterday is Sunday. You *played* soccer yesterday?

S1: Yes.

T: Oh, you *played* soccer yesterday.

※何人かの生徒と同様の対話をする。

※listen to musicについても対話をする。

T: You talk about 'every day,' then you say, "I play something every day." But you talk about 'yesterday,' then you say, for example, "I play tennis yesterday."?

S: "*played*."

T: That's right. How about "listen to music"? "I listen to music last night"?

S : No, "listened."

② Mim-mem

T : Let's practice. Repeat, "played"

S : "played"

T : (自分の上に「吹き出し」マークをもって)

I played tennis yesterday.

S : I played tennis yesterday.

T : (「吹き出し」マークをとって)

I played tennis yesterday.

S : You played tennis yesterday.

※listen についても同様に練習する。

※特に[d]の音を強調して練習させる。

③ Oral Practice(Chorus → Individual)

次のPCを示して、口頭練習させます。[t]という音があることにも注意させます。

絵を見て、例にならい、昨日したことを書いてみましょう。

I played basketball yesterday.

(東京書籍『NEW HORIZON English Course 1 (平成5年発行)』)

④ Consolidation

[d] [t]という音からつづりを想像させます。

③で練習した文をノートに書かせます。

(第2時) ※文法指導の箇所のみ抜粋

① Review (Recollection of the Main Point)

前時のPCを使って表現を思い出させます。

T : Look at this picture. Ken likes TV. Does he watch TV every day?

S : Yes, he does.

T : Long answer, please.

S : Yes, he does. He watches TV every day.

T : Then, how about yesterday? In this case you say,...

S : Ken watched TV yesterday.

T : Good! Ken watched TV yesterday.

S : Ken watched TV yesterday.

※残りの人物についても同様に。

② Pair Practice

目標文が正しく言えるようになったかを、次のワークシートを使ってペアで確認させます。

書いてみよう! No.53

(昨日) ~しました

OMを見て、例にならい、いつもすること昨日したことを書いてみよう。

Step 1: 先生の言う英文をよく聞き、リズムよく書いてみよう。

Step 2: 上の1~3の絵について、①いつもすること、②昨日したこと、の2つの文を書いてみよう (Step 1の単語のとおりに)。また、それをパートナーに聞いてもらって評語してもらおう。

- 自分……パートナーに自分のプリントの絵を示して、英文を書こう。
- パートナー……パートナーの書いた英文をよく聞き、下の質問で評語する。(上の口に入る)

A : スムーズに正しく書えた。  
 B : ややスムーズに欠けるが、正しく書えた。  
 C : 書えてもらって正しく書えた。  
 D : 正しく書えなかった。

Step 3: 今日の活動について、自己評価してみよう。

- A : とても積極的に取り組んだ
- I : 最終的に取り組んだ
- U : やや最終に欠けていた
- N : まったく最終に欠けていた

Class: \_\_\_ No.: \_\_\_ Name: \_\_\_\_\_

③ Oral Introduction

今回の指導内容は過去形の疑問文の問答です。すでにdo, doesは頭に入っているわけですから、それらとの相違を上手に利用して無理なく理解させたいものです。

疑問文の導入方法としては、前回は生徒とのインターアクションをとおして教えていく方法を示しましたが、今回はモデル対話を聞かせるという方法を採用しました。ALTがいなかったため、腹話術で行いました。題して「ケンちゃんといつでもティーム・ティーチング」。



## 1) Input of the Target Expression

T : Ken-chan, we are talking about TV. Do you watch TV every day?

K : Yes, I do. I watch TV every day.

T : Then, how about yesterday? *Did* you watch TV yesterday?

K : Excuse me?

T : *Did* you watch TV yesterday?

K : Oh, yes, I *did*.

T : You *did*?

S : Yes, I *did*. I watched TV yesterday.

T : Then, *did* you watch TV last Sunday?

S : Last Sunday? No, I *didn't*.

## 2) Check of Understanding

T : All right, everyone. *Did* Ken-chan watch TV yesterday?

S : Yes,... I... *did*.

T : " I " ?

S : " he " !

T : *Did* Ken-chan watch TV yesterday?

S : Yes, he *did*.

T : *Did* he watch TV last Sunday?

S : No, he *didn't*.

## ④ Mim-mem

## 1) 答え方

Yes, he *did*./No, he *didn't*. の他に、主語を you に代えて生徒に質問し、Yes, I *did*./No. I

*didn't*. も練習する。

## 2) 質問文

T : Repeat, "He watched TV yesterday."

S : He watched TV yesterday.

T : Question! (注 : 疑問文にするという cue)

S : Did he *watched* TV yesterday?

T : "Watched"? No, in this case you say, "Did he *watch* TV?" Again!

S : Did he *watch* TV yesterday?

## ⑤ Oral Practice

前時と同じ PC を使って練習させます。

## ⑥ Consolidation

*did* のつづりを音から想像させてみます。また、実際にそれまでに口頭練習した文を書かせ、- (e) d が疑問文では落ちることなどを再確認させます。

## 2. 場面を重視したコミュニケーション活動

さて、ここまで十分な口頭練習ができましたので、少しだけ場面を重視した活動ができるようにしましょう。

〈第3時〉※文法指導の部分のみ抜粋

## ◎規則動詞の過去形を使った情報収集活動

本活動の目的は、情報交換を行うという場面をとおして、規則動詞の過去形の間答文を使うことに慣れさせるというものです。(ワークシートは次ページ参照)

本活動の第1のポイントは、「答えを予想する」というところにあります。こうすることによって、相手に尋ねて情報を集めようという動機を持たせることができます。ペア活動などにも大変有効なので、よくこの方法を採用します。

第2のポイントは、尋ねた結果を報告させるために、集めた情報をまとめて客観的な立場の

文に書かせる活動 (Step 5) を入れたことで、ともすれば、ワイワイ・ガヤガヤと楽しく情報集めができた、で終わってしまいそうなこの種の活動をより地に足の着いたものとするための post activity です。

たずねてみよう！ \_\_\_\_\_ No.65  
(昨日) ~しましたか？ パート2

この内容について、「昨日~しましたか。」とお互いになぞ合わせてみよう！

	①	②	③	④	⑤
ヒント語	watch	cook	listen	study	do
自分の名					
1 対子語					
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
演習紙					

Step 1: 上の表の自分の欄に、質問に対して Yes なら○、No なら×を記入しよう。

Step 2: 左の欄の1-7に、パートナーの列の人の名前を記入しよう。

Step 3: 上の表の質問について、パートナーの列の人の○数を予想しよう。

Step 4: 上の表の質問について、パートナーの列の人にたずね、それぞれの答えを○×で記入しよう。また、たずねられたらしっかりと答えよう。そして、左側にたずね終わったら、○の数の合計を「質問数」に書き入れよう。

Step 5: 上の結果についてまとめてみよう。(例: Five students played tennis yesterday.)

① \_\_\_\_\_ students \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_ students \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_ students \_\_\_\_\_

④ \_\_\_\_\_ students \_\_\_\_\_

⑤ \_\_\_\_\_ students \_\_\_\_\_

### 3. 理解を深めさせる文法学習

#### (1) コミュニケーション活動と文法指導の両立

このことは、ここ数年大きな議論的になっています。私自身も度々が各種学会のパネリストとなってこの点を勉強しましたが、それでも明確な答えは出せていません。ただ、一つだけ言えることは、両者は対立するものではなく、共に教える中でそれぞれの効果を相乗的に高め合うものだという事です。ですから、授業においても両者をバランスよく指導する必要があります。そして、中・長期的な視点でスパイラルに積み上げるのだという考え方で、授業計画を立てるようにします。

#### (2) プリントによる文法学習

授業で文法のまとめを扱う場合、最も一般的な方法は教科書の「文法のまとめ」のページを使うことでしょう。ところが、このようなページは、たいていスペースの関係で十分な説明は記されず、扱いは教師に委ねられています。

私は、このようなページを扱うときは毎回そのページをベースとした自作プリントを作成し、半自習的な授業を行います。文法のまとめの時間は、このようなプリント学習に切り替えてしまった方が、だらだらと口頭で説明するような授業をしなくて済みます。また、あらかじめプリントを作っておくことで、クラス毎に説明する内容が違ってしまったというようなことを防ぐこともできます。

プリントを作成する際の留意点は、自分の生徒の実態とそこまでの授業内容を踏まえ、あと何をおさえておけばよいかということを見極めることです。また、演習問題は、答えが教科書の例文になるような問いにすると、答え合わせをしやすくなります。

おわりに

これまで3回にわたって1年生の文法指導の例を紹介しました。いずれの回も、「これが理想の方法だ」というような机上の論理を展開するのではなく、自分が実際に行ったことをその理念と共に示しました。したがって、大切なことを落としているかもしれませんが、その点はご容赦ください。

なお、スペースの関係で掲載できなかった規則動詞過去形のまとめのプリントは、下記のホームページでご覧いただけるようにします。

<http://village.infoweb.ne.jp/~koinuma>  
(本誌第17号裏表紙でも紹介されています)